

## 水俣・川崎展市民委員会ニュース 第3号

2003年8月2日発行

8月に入り、ようやく夏らしいお天気になってきました。長い梅雨が明け、いよいよ夏本番です。プレイベントの内容も大部つまってきました。小さな水俣展のお昼休みに行われるトークショーの語り部も決まりました。市民委員会のチラシも鋭意作成中です。

第3号のニュースは「代表 鈴木俊輔さんに決定」「夏の合宿について」と「私の水俣 第3回」と当面の予定です。

### 代表 鈴木俊輔さんに決定

第5回の市民委員会で、鈴木俊輔さんが市民委員会の代表に決定しました。一番初めの「私の水俣」に掲載されたみずみずしい文章を覚えていらっしゃる方も多いのではないかと思います。「何となく豊かな生活、しかし隠されたものは見えにくく、いつまでも、心の中に疑問を持ちながら生きている。そんな生活の中に、水俣は隠されようとしたものを打ちやぶるエネルギーをもって、何か勇気を与えてくれるような気がするのです。」という鈴木さん。この水俣・川崎展の市民委員会にはいろんな年代の方々が参加されていますが、若手の鈴木さんの豊かな感性に期待する人がたくさんいます。

プレイベントに始まり、来年の本展まで長丁場です。協力しあい、水俣・川崎展を盛り上げていきましょう。

### 水俣・川崎展市民委員会 夏の合宿について

7月の市民委員会で提案された市民委員会の夏の合宿ですが、8月30日 - 31日の日程で、御殿場の「富士の里」にて行われることになりました。費用は交通費も合わせて5千円程度となりそうです。普段の市民委員会では語りきれないことを話し合い、9月1日から始まる「小さな水俣展」やプレイベントに向けてのそれぞれの気持ちを新たにする場になるのではないかと思います。

詳しい日程・内容などは、次回第6回の市民委員会で話し合います。夏休み最後の土日ですが、ぜひご参加ください。

(ぐらす・かわさき / 広岡希美)

## 「私の水俣」第3回

96年水俣・東京展で、約5000人の遺影を前に立っているとき、この写真を私は前に見たことがある、と思っていました。確か原爆記念館にもこのような展示があったことを思い出したのは、東京展を見て帰ってきてからしばらくしてのちでした。

私は小学校4年生のとき、横浜から広島へ移りました。広島の学校では8月6日は登校日です。生徒たちは体育館で原爆の映画を見させられていました。当時は「こわい」「気持ち悪い」としか思えなくて、夏休みが来るのがとてもいやでした。小学生のときは、この遺影に移っている方一人一人に生きていた喜びがあり、夢を実現したいという希望があったこと、この人たちを大事にしている家族がいたこと等、全然わかりませんでした。私が感じていたのは、こんな時代に生まれなくてよかった、という安堵感や、こんなみにくい姿にはなりたくない、という優越感だったと思います。

私は、水俣・川崎展に自分の子どもを連れて行くつもりです。本当は水俣のように地縁の濃い土地で子育てしたいのですが、2人の子は川崎生まれ川崎育ちです。市民委員会との出会いは、今まで私が知らなかった川崎の歴史を学ぶチャンスかもしれません。

私は弱い人間なので、今持っているものでもまだ使えるのに、新しいものが欲しくなったり、マスメディアの情報に世の中の変化に取り残される不安を感じることがあります。悲劇から再生に向かって、たくましく生きている人の暮らしがある水俣。私がそれにもっと深く共感できたら不安や物欲から解放されるのではないかと期待しています。

(後藤美穂 / 高津区在住)

1968年4月私は、日大に入学。時を同じくして、大学では不正経理が発覚し、民主化を求める声が学生から上がった。今まで政治的な行動やデモなどに無縁と言われてきた日大で民主化闘争が始まり、6月には生まれて初めてデモなるものに参加した。学生のストライキに対して大学はロックアウトで対抗し、長い戦いが始まった。

当時私は理工学部の土木工学科に籍を置いていたが、授業が無い中、私達は自主講座を設けた。ベトナム反戦運動や全国の大学における全共闘運動の興隆と共に、大学や研究室の技術関係者等から所謂「技術論」への問題提起が始まった。これは既成の価値観へのあらゆる疑問と戦後の日本経済の繁栄を支えて来た「技術」への問題提起としてあり、当時のスローガン「技術は真に人間を幸せにするのか?」「技術は人間にとって何なのか?」等は現在の水俣展のキャッチコピーの先駆をなすものと言えるだろう。

我自主講座に招かれた当時の都立大学の湯浅先生も問題提起者の一人であった。そうした論議をしている中で、先生から水俣病の患者さんが厚生省に抗議に上京するので支援に行かないかとの呼びかけを受けた。1970年5月水俣病に関しては公害病と言う知識以上の何物も無い中で、当日の行動に参加した。実はこの時警察に逮捕される覚悟の「決死隊」(大

袈裟な)が求められ、日大からはKが選ばれた。その他患者さんの以外に宇井純さんや、土本監督等がいた。彼らは厚生省の中で予定どおり？逮捕され、マスコミはその行動を大きく報道し、水俣から遠く離れ、惰眠を貪っていた東京政府に水俣病の存在を改めて提起した。

約二ヵ月後の6月28日東京水俣病告発する会が発足。東京における水俣病の拠点が出来上がった。日大闘争や全国の学園闘争が政府の弾圧体制の中で膠着、衰退する中で、私にとって水俣との関わりは非常な新鮮なものであった。ここへ集まる学生、映画人、演劇人、研究者、厚生省の役人、無職人など人種の雑多さや、毎週末の新宿歩行者天国でのカンパ活動等。

上京してくる患者さんの世話や行動の手配やもちろん抗議行動も共に。時にはお遍路さんの姿をし、チツソの会社幹部の自宅を訪ねる行動もあり、私はドライバーとなり道案内をしたりした。この患者さんの模様は小池裕子さん監督による映画「勸進」として映像に残っている。

70年10月私は学生運動で初めて警察に逮捕され、杉並区の荻窪警察署で23日間オギクボ2号として過ごした。Kも再び逮捕された。荻窪署の隣りの房には東京の告発する会に来ているK大の仲間も一緒だった。彼は数ヵ月後自ら命を絶った。

荻窪署から自由の身になって2週間後、全国の告発する会の仲間と大阪のチツソ株主総会へと向かった。一株運動は東京の後藤弁護士が患者さんと会社幹部の直接対決の場として提案された。当日は患者さんの悲痛な訴えの場となり、会場の告発する会の仲間は患者さんのチツソ幹部へ心の底からの訴えを聞いて全員が大きな声を出してもらい泣きをした。

私は72年に就職が決まり、今度は職場での労働運動等で水俣とは疎遠となった。しかし私が水俣と関わった約2年間、歳で言うと二十歳から二十二歳頃。それは正に駆け抜けるような青春の一時期であった。ただ私にとって残念だったのは、患者さんとの距離であった。世間話は出来てもそれ以上は近づけなかった。ましてやお遍路さん姿の患者さんとは一段と距離を感じた。水銀によって命や体の自由を奪われ、健康と生活への不安で溢れる患者さんと親に学費を負担してもらい、生活臭の殆ど無いプチブル学生であった私は世界の違いを感じざるを得なかった。

あれから約30年、今年の3月、患者の大村さんの話を聞き、今度はそばに行けそうな気がしてきた。

最後に私事 当時知り合った一人の女性が私の連れ合いです。

我青春の水俣よ永遠なれ

( 齊藤 彰/川崎市職員 )

## 当面の予定

### ・市民委員会

- ・第6回水俣・川崎展市民委員会  
8月8日(金) 18時30分～ 高津市民館第4会議室
- ・第7回水俣・川崎展市民委員会  
9月12日(金) 18時30分～ 高津市民館第4会議室
- ・第8回水俣・川崎展市民委員会  
10月10日(金) 18時30分～ 高津市民館第5会議室
- ・第9回水俣川崎市民委員会  
11月14日(金) 18時30分～ 高津市民館第5会議室

### ・イベント

- イベント 10月 25日(土) 13時～17時 日本映画学校 4階大会議室  
佐藤忠男さんと観る「水俣—患者さんとその世界」
- イベント 未定
- イベント 12月 5日(金) 18時30分～ 川崎市産業振興会館ホール  
宇井淳さんの講演「新・公害原論～水俣、沖縄、そして川崎～」

### ・小さな水俣展

- 川崎区役所 1階展示ギャラリー 9月1日(月)～12日(金)
- 幸区役所 1階ロビー 9月16日(火)～26日(金)
- 中原区役所 1階市民ホール 9月29日(月)～10月10日(金)
- 多摩区役所 1階アトリウム 10月14日(火)～24日(金)
- 宮前区役所 2階ロビー 10月27日(月)～11月7日(金)
- 高津区役所 1階市民ホール 11月10日(月)～14日(金) 1週間です
- 麻生区役所 2階ロビー 11月17日(月)～28日(金)

#### ■「小さな水俣展」トークショーについて

- 川崎会場 9月12日(金) 大村トミエさん 水俣病患者(川崎市幸区在住)
- 幸会場 9月26日(金) 土本典昭さん 映画監督
- 多摩会場 10月24日(金) 最首悟さん 和光大学教授
- 宮前会場 11月 7日(金) 宇井純さん 公害研究者
- 高津会場 11月14日(金) 桑原史成さん 報道写真家
- 麻生会場 11月28日(金) 栗原彬さん NPO法人水俣フォーラム理事長

いずれも時間は12時20分から50分の予定、

中原は会場のスペースの関係から未実施

## 水俣・川崎展市民委員会

<事務局> 社団法人川崎地方自治研究センター内

〒210-0006 川崎市川崎区砂子1-7-5 タカシゲビル6F

TEL&FAX: 044-244-7610 E-mail: KYP04423@nifty.ne.jp

<北部ランチ> ぐらす・かわさき内

〒214-0014 川崎市多摩区登戸2590-3 ヨシザワ15ビル4F

TEL&FAX: 044-922-4917 E-mail: grass-k@guitar.ocn.ne.jp